

いきいき
まえばし人

将来は世界大会で活躍したい



全国選抜ジュニアテニス県予選で優勝
清水 綾乃さん・12歳
上細井町

全国選抜ジュニアテニス選手権群馬県予選(U-14)に第1シードで出場し、見事優勝を勝ち取った。「第2シードだった子と決勝で戦えるのを楽しみにしていたんですが、その子が準決勝で負けてしまったんです。決勝の前にその子に『絶対勝つてね』と言われて、優勝しなくちゃと気合いが入りました」
今回優勝したことで、4月に行われる関東予選の切符を手にした。「関東予選には強い人がたくさん出場するけれど、負けずに頑張って上位に入り、全国大会にも出場したいです。そのために、苦手のサーブとレシーブを強化していきます」
両親と2人の兄がテニスをしてきたこともあり、幼いころからテニスに触れて育った。初めてコートに立ったのは3歳のとき。現在、高崎市倉賀野町のテニスクラブに通い、ほとんど毎日、練習に励んでいる。時間のある日は、読書や手芸を楽しむ。物を作ることが特に好きで、学校では手芸クラブに入っている。「自信作は、友達と一緒に作ったエプロン。ほかにも、ビーズ工作やフェルト細工なども作りました」
4月からは中学生になる清水さん。これからもテニスが続けて、将来は世界大会に出場するのが夢だという。「わたしは身長が低いほうだけれど、憧れのジュステイヌ・エナン選手のように、小柄でも強い選手になりたいです」
新しい環境になっても大好きなテニスに打ち込み、世界への扉を開いてほしい。

グー・ズ・ア・ップ



白銀の赤城山を楽しむ

赤城大沼湖畔あかぎ広場で2月11日、赤城山雪まつりを開催。パン食い競争や雪だるま作り、グラウンドゴルフなどのほか、氷結した大沼ではワカサギ釣り大会も行われました。訪れた人たちは見渡す限り広がる白銀の世界で、楽しいひとときを過ごしました。



いにしえ
万華鏡
その二十四

問い合わせは 文化財保護課 0263-1-95931

古墳時代の最後を飾る
国指定史跡 蛇穴山古墳

新しい総社公民館の建設が進んでいる敷地の南東隅に、小山があります。これは7世紀末に造られたといわれている蛇穴山古墳で、県内にある古墳では最後の物の一つです。南側には大きな一枚石を精緻に加工し、組み合わせ天井と壁を形作った「截り石切り積み積み」の横穴式石室が開口しています。



横穴式の蛇穴山古墳

蛇穴山古墳の名称は14世紀に成立したとされる仏教説話集「神道集」にある「蛇喰池の中島にある蛇塚の岩屋」が由来ではないかといわれ、江戸時代の紀行文などにも紹介されています。
最近、古墳の周堀の一部が発掘調査され、石張りの中堀を持つ二重の堀に囲まれていたこと、規模は一辺が82坪という極めて大きな方墳であったことが分かりました。県内における古墳時代の最後を飾る大規模な方墳だったといえます。
江戸時代、この蛇穴山古墳には弁天様が祭られていました。弁天様は蛇体で表現されることがあり、水にまつわる神といわれています。おそらく、神道集の蛇塚の岩屋から、水堀、蛇、弁財天と江戸時代に改修され、霊験あらたかな社として大切に祭られてきたのでしょう。
総社の地に隣接して築かれた愛宕山、宝塔山、蛇穴山の3基の大方墳の築造史は、そのまま日本列島の古墳時代の終息を物語っています。

躍動感あふれる踊りを披露

2月20日、ベトナム文化ホールで前橋高崎連携文化事業・市民ダンスコンテストを開催しました。予選を勝ち上がった20チームがダンスを披露。躍動感あふれる踊りに観客は大きな拍手を送っていました。



腸内環境の大切さ学ぶ

2月12日、前橋工科大で生物工学シンポジウム「腸内環境のはなし」を開催。3人の講師が腸の活動や排泄物の状態など、腸内の環境と健康について講演しました。ユーモアを交えたためになる話に、参加者は聞き入っていました。

